

釧路市教育委員会 令和7年第14回7月定例会会議録

- 1 日時：令和7年7月29日（火）13時30分から15時00分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
山口隆委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、大山稔彦委員
(事務局)
澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、竹内スポーツ課長、北村阿寒教育事務所長、中谷担当係長
- 4 議事録署名人 大山委員 靱山委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

議案第59号 令和8年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

報告事項

- (1) 第1回学びの多様化学校検討委員会の開催結果について
- (2) 第98回日本学生氷上競技選手権大会釧路市実行委員会の設立について
- (3) 第9回タンチョウリーグ in くしろの開催について
- (4) くしろタンチョウカップ2025の開催について
- (5) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】

議案第59号 令和8年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について

(及川北陽高等学校事務長)

議案第59号、令和8年度釧路北陽高等学校教科用図書採択について説明する。

本年5月の定例教育委員会で報告したとおり、北陽高等学校では「教科書選定委員会」を設置し、文部科学省発行の「高等学校用教科書目録」に記載された教科書の中から、一覧のとおり令和8年度に使用するものを決定している。そのうち、左から4列目の「新規」の欄に○印で示している19種類の教科書が、昨年度に文科省の検定が行われ、今回新たに採択をお願いするものである。

各教科書の採択理由については、資料1枚目の上段にある教科書の選定理由の欄、「内容の取扱い」、「単元の構成、配列及び分量」、「その他」の3つの観点において評価し、最も適合する観点を「選定の理由」として、教科書一覧の右端の欄に●印で記載している。なお、本案を可決いただいた後、今月末までに北海道へ教科書需要数の報告を行う。その後、生徒の選択科目が確定する10月下旬頃に需要数の修正報告を行い、その確定数を基に翌年3月に教科書を購入する流れとなっている。

◎特に意見はなく、本議案は、原案のとおり承認された

【公開案件】報告事項

(1) 第1回学びの多様化学校検討委員会の開催結果について

(大島学校指導課長)

報告事項1、第1回学びの多様化学校検討委員会の開催結果について報告する。

第1回目の検討委員会を、去る6月30日に開催した。委員長には教育大の越川キャンパス長、副委員長には校長会の土江田会長が選任された。検討委員会では、全国や釧路市の不登校児童生徒の状況と対策を説明し、釧路市の学びの多様化学校の概要を説明した後に、大きく3つの協議内容について協議いただいた。

1点目は、スクールビジョンになる。事務局からは、不登校児童生徒にもどのような学校なのかイメージできるビジョンを設定したいという考えを伝え、委員からは、子どもに寄り添う内容をメッセージとして取り入れる、学校のイメージと子供たち向けを分けて2本作ってはどうか等のご意見をいただいた。結果としては、次回の検討委員会で事務局案をもって決定していきたいという流れになっている。

2点目は、特別の教育課程の編成になる。事務局からは、総授業時数を850時間とすることや新設科目の内容、生徒への配慮として、登校時間を9時とすることや授業時間を5分

短縮し45分とすること、放課後を使って学校へ通えなかった期間の学びなおしや得意とする科目の発展を行うことを説明した。委員からは、9時登校では地域の中학생とバス停などで接触が発生するのではないか、1人1人の差や得意不得意にどこまで対応できるのかを学校の特色にするというのはどうだろうか等のご意見をいただいた。結果としては、登校時間を再検討することと、新設の科目については、2回目の検討委員会で具体的な内容を説明したいと考えている。

3点目は、学校名についてである。学校名、分校名、通称名、全国の学びの多様化学校ではこの3パターンがあると説明した後、事務局としては学校名を決めたいということを考えていることを説明した。次回の検討委員会で事務局案を示していく中で、決定していきたいということになっている。次回の検討委員会については、明後日31日を予定しており、引き続きこれらの内容を協議していきたい。

◎この説明について、各委員からの次のとおり発言あり

(山口委員)

非常にきめ細やかな案で、各学校とやり取りをしながら、順調に作業が進んでいる認識をもっている。検討委員会の方々の意見も取り入れながら、できるだけ良い形で来年度からの学びの多様化学校がスタートできることを期待しているのでよろしくお願いいたします。

(小出委員)

ソーシャルスキルトレーニング等、普通の学校と異なるカリキュラムを説明していただいた。学びの多様化学校ということで専門性が高く、生徒との関わり方におけるスキルが高い先生や、ソーシャルワーカーが対応にあたってくれれば、より学びの多様化学校を開校する意味があると思うので、先生たちの人選については、気を配って選んでいただけたらと思う。

(大島学校指導課長)

専門性の高い体制、人材づくりというのが不可欠になるかと思うので、道教委との人事的な話し合いや、市の内部でどういった体制を組めるかなどしっかりと詰めていきたい。

(山口委員)

昨日、鳥取中学校に伺った際に校長先生と学びの多様化学校について意見交換を行った。感じたのはどういったスタンスで人員を固めるかというときに、本人が不同意であるが学びの多様化学校に異動したとなると、スタート段階で上手くいかない1つの要因になるかと思うので、学びの多様化学校に興味を持ちながら、自分も関わってみたいという前向きな先生を集められる手立てが必要なのではないかと感じているところである。可能な限り配慮していただきたいと思う。

(岡部教育長)

今の提案に対し、人事でどこまでできるのか。

(本川教育指導参事)

どこまで決められるかわからないが、山口委員からのご指摘については私も同感である。

3校の義務教育学校を開校するにあたっても同様に様々なことが起きているので、重々加味しながら、全体のバランスを見た上で、失敗の無いように進めたいと思う。実際、学びの多様化学校を希望する先生がどのくらいいるのか、希望していても私どもから見て適任だと思える先生がどのくらいいるのか、今後調査をしていきたい。

(山口委員)

リスト化を行うにあたり、こちら側から見てこの先生には学びの多様化学校においてスキルを発揮してもらいたいという先生がいると思われる。そういった先生には校長を通した上で、直接的にこういったところを期待していると教育委員会が本人に説明をすることもあって良いのではないかと考えている。

(本川教育指導参事)

1点懸念として定数の問題があり、中学校の人数であれば1教科1人である。検討段階ではかなり厳しいところであるが、今のご意見を参考にしながら進めていきたいと思う。

(山口委員)

これは教育長にお願いするところかと思うが、公立の学びの多様化学校が釧路市にできるということは、全国的、全道的にも注目されているところであると思う。釧路市内の先生方だけではなく、幅広く人財を見渡しながらか、教育長同士で話をさせていただき、人選することも必要になってくるのではないかと考えている。よろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

これは公立の学校であり、国が300校の開校というのを目指している中で、今後学びの多様化学校というのが各地に開校されるはずである。まだ日本では50数校程度で滞っているが、やがて不登校対策として普通の学校になったときに、人事面で特化することをいつまでもできないと思う。今は公立として北海道内で初めての学びの多様化学校といった特殊要素がありながらも、やはり普通の学校である。そういう意味から考えると、人事上のバランスはとっていかねばならないと考えている。

(靱山委員)

保護者の方はこういった学校であるかのイメージがないと思う。全国には50数校程あるかと思うが、例えば卒業したときの姿や将来の見通しが見えることにより、自分の子に合っているかということを考えていきやすいと思うので、そのあたりをご検討いただければと思う。

(大島学校指導課長)

来年の開校に向けてのスケジュールになるが、10月には保護者へ説明する場を設けようと考えているところであり、それに向けては靱山委員から指摘のあった学校の内容がどういうものなのか、例えば新設の科目はどのような特色があるのだろうかというのが伝わるリーフレットのようなものを作っていかねばならないと考えている。そういったものを通して、皆様に伝わる体制を作っていききたいと考えている。

(山口委員)

保護者の方へ正しく説明するために、まず先生方に正しく理解してもらうことが大事であ

と思う。自分の学校の子どもたちはどちらに適しているのかを理解してもらうことが必要であり、校長や教頭だけではなく実際に子どもたちを見ている先生たちの理解も必要だと思う。

(大島学校指導課長)

10月の保護者説明会の前にはある程度大枠が見えるため、それが見えてきたあかつきには学校を回って説明したいと考えている。しっかりと学校を回る中で先生たちの理解を深めていくような取組をしていきたいと思っている。

(岡部教育長)

釧路市では様々な不登校対策を行ってきた中で、さらにもう1つ違う居場所を用意することになる。よって学びの多様化学校が特別なものではなく、これで不登校対策が終わることにもならない。今後ともぜひよろしくお願ひしたい。

【公開案件】報告事項

(2) 第98回日本学生氷上競技選手権大会釧路市実行委員会の設立について

(竹内スポーツ課長)

報告事項2、第98回日本学生氷上競技選手権大会釧路市実行委員会の設立について報告する。

令和6年9月の定例教育委員会において、「第98回日本学生氷上競技選手権大会」のスピードスケート競技会の開催地が釧路市に決定したことを報告していたが大会運営にあたり、日本学生氷上競技連盟や地元競技団体をはじめとする関係団体と連携を図るため、本日令和7年7月29日、地元実行委員会の設立総会を開催した。

当市における開催は、令和元年度の第92回大会以来6年ぶり7回目となり、第98回大会は、令和8年1月4日(日)から7日(水)までの4日間の日程で、柳町スピードスケート場において開催する。本大会を通じて、大学関係者をはじめとする皆様に対し、当市の充実した施設環境と合宿地としての魅力を広く発信し、合宿来訪につなげるとともに、当市におけるスピードスケート競技の普及振興や競技力の向上を図ってまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(3) 第9回タンチョウリーグ in くしろの開催について

(竹内スポーツ課長)

報告事項3、第9回タンチョウリーグ in くしろの開催について報告する。

第9回目となる「タンチョウリーグ in くしろ」が8月9日(土)から17日(日)の期間で開催される。開幕戦として、8月9日(土)に亜細亜大学対神戸学院大学の試合が行わ

れ、その後、交流戦が8月10日（日）から17日（日）の期間、亜細亜大学硬式野球部、Feather Home HORNETS、北海ブルーウェーブ、東京農業大学北海道オホーツク硬式野球部、神戸学院大学硬式野球部、釧路公立大学硬式野球部の6チームにより全8試合が開催される予定である。会場はウインドヒルひがし北海道スタジアムとなっている。

「タンチョウリーグ」は、平成29年に釧路市民球場の大規模改修工事が完了したことを機に、亜細亜大学硬式野球部が中心となり創設され、今年度で9回目を数える大会となる。また開催期間中には、小学生を対象とする野球教室も予定されているほか、試合については入場料を無料とする有観客での開催を予定しており、市民をはじめとする多くの観客や子どもたちに、レベルの高いプレーをご覧いただけることを願っている。

◎この説明について、各委員からの次のとおり発言あり

（山口委員）

亜細亜大学がコロナを理由に1度合宿に来れなかった時期はあったが、継続して釧路市に合宿に来ていただいている。神戸学院大学もこのタンチョウリーグに参加し、8月9日から8月17日までずっと釧路に滞在することになるかと思うが、神戸学院大学の合宿地は、釧路市以外に拠点を設けているのか。

（竹内スポーツ課長）

神戸学院大学については、厚岸町のネイパルに宿泊しつつ厚岸町のグラウンドで数日練習した後にこちらへ通いながら、タンチョウリーグに参加するという形であると伺っている。

（岡部教育長）

厚岸に球場はあるのか。

（竹内スポーツ課長）

ある。

（山口委員）

人工芝ではないのか。

（工藤生涯学習部長）

人工芝ではないが、以前にはJR東日本が数日間、厚岸町にて合宿を行っていたことがある。また専修大学がネイパルに宿泊しながら合宿をしていたという実績もあるので、当時の町長がそれに向けて設備改修も行っていたことから、厚岸町としては受け入れ態勢が整っている。

【公開案件】 報告事項

（4）くしろタンチョウカップ 2025 の開催について

（竹内スポーツ課長）

報告事項4、くしろタンチョウカップ 2025 の開催について報告する。

昨年度に引き続き、アイスホッケー交流戦である「くしろタンチョウカップ 2025」が8月19日（火）から23日（土）の期間で開催される。今大会は、関東、関西、韓国からの大学生チームと、武修館高校による合計7チームの交流戦で、会場はユタカアイスアリーナくしろとなる。この交流戦は、アイスホッケーの競技発展と人材育成を目的とする「くしろピエルマキプロジェクト実行委員会」の事業として開催するものであり、今回が3年連続3回目の開催となる。また、参加チームによる事前合宿も行われる予定となっており、市外から来訪する6チームによる延べ宿泊数は約1,700人となる見込みで、経済波及効果の高い滞在型の交流戦となっている。そのほか、開催期間中には、交流戦以外にも小中学生を対象としたアイスホッケー教室や、アイスホッケー選手や選手の父兄等を対象とする大学説明会が開催される。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(5) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項5、学校の現状について報告する。

全国各地で猛暑が続く中で、先週は釧路地方も30℃超えの日もあり、熱中症予防については各学校でも細心の注意を払いながら教育活動を行ってきた。幸いにも先週の熱い期間を含めて現在のところ熱中症による救急搬送などの大きな事故が小中学校・義務教育学校では起きていない上、他市町村のように下校時刻の繰り上げ等も7月は行っていない。信頼にも掲載しているが、各学校では暑さ指数計を用いて測定し、それに基づいて午後の体育等屋外での活動中止や、放課後の部活動の停止等を判断している。このような状況の中で、市内小・中・義務教育学校は7月26日（土）から8月24日（日）まで、30日間の夏季休業に入っている。例年行なわれている夏季休業中の学習サポートについては、ほぼ全ての学校で3日間実施されている。また、課題の出し方や内容についても、タブレットを長期休業中に持ち帰らせる場合については、それなりにタブレットでなければならないような課題の出し方の工夫であるとか、Wi-Fi環境がごく一部整っていない児童生徒の家庭については学校の一部を開放など、丁寧な配慮と周知を行うよう各学校にあらためて指示を出したところである。

報道にもあるように、先日、名古屋市の小学校の先生たちが学校内で女子児童を盗撮し、その画像をSNSのチャットで共有するという信じがたい事件を受けて、この度道教委からすべての道内の公立学校に対して、校内の盗撮カメラ緊急点検に係る通知が発出され、それを受けて釧路市立の小・中・義務教育学校でも点検を実施した。点検の結果、北陽高等学校を含めていずれも不審物が見つからなかったという結果で、道には報告をしている。万一不審物が発見された場合の対処等についても道教委から通知と共にマニュアルが発出されてい

るが、中には授業中の一切の撮影を禁止することに質問が出たり、あるいはスマートフォンを用いてデジタルコンテンツを授業で活用している先生がいたり、自らの授業改善を目的とした自己の授業を撮影したり、板書を撮影して自分の研鑽に活かしている先生など、いわゆる研究心旺盛な先生も少なくないため、授業中における撮影等については、今後さらなる細かな規定等が道教委から発出されることも検討中との情報も得ている。いずれにしても、これらを含めた不祥事や各種ハラスメントの根絶と防止については教職員1人1人が高い倫理観と教育者としての使命感を深く心に刻みながら、いかなる不祥事も起こさないという強い決意を持つよう各学校で指導するよう校長会議にて伝えたところである。さらに今後も継続的に適宜指導していく。

来春開校の学びの多様化学校については、先ほど報告が別途あったとおりである。学校が開設される中央小学校においても過日、昼と夜の2回に時間帯を分けて教職員と保護者、ならびに地域の方々を中心に説明会を実施した。小出委員については地域の住民であり、様々な視点から参加をいただいたところである。今後学びの多様化学校ならびに義務教育学校2校が来春できるので、この3つの学校の開校準備に向けては急ピッチで進めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(大山委員)

1番心配なのは名古屋で起きた盗撮の話であり、現段階で各学校において先生方はスマートフォンを使えなくなっているということで良いか。

(本川教育指導参事)

スマートフォンは出さないようにするという事で統一している。

(大山委員)

私たちが学校訪問に伺った際にもスマートフォンによる授業撮影は気をつけなければならないと思っている。

(本川教育指導参事)

私もあの事件以来、経営訪問で撮影が必要なときのみ許可を得た上で撮影をしている。校長や教頭からも非常に困難をきたしていると聞いている。

(山口委員)

例えば学校行事などで保護者が撮影した画像や動画についても今後、規制が出てくる可能性はあるのか。

(本川教育指導参事)

未定ではあるが、多くの課題があることから道教委からの方針を待ち、釧路市独自でも検討していきたいと考えている。

(山口委員)

学校行事の記録等を私物で撮影してはいけないということになるかと思うが、備品として

カメラ等についての整備状況はどうなっているのか。

(本川教育指導参事)

今回の名古屋の事件は学校の備品であるデジタルカメラであった。よって私個人的な意見としては撮影機材ではなく、撮影そのものが課題であると思う。

(岡部教育長)

結局はコンプライアンスである。報じられている内容から、各学校におけるコンプライアンスの徹底、学校ごとにしっかりと助言をしていくことが必要であると考えている。

(鈴木北陽高等学校長)

続いて、北陽高等学校における学校の現状について報告する。

北陽高等学校は単位制の普通科の高等学校であるが、そもそも文部科学省が定義する単位制高等学校は何かというと、「学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高等学校」と定義づけられている。北陽高等学校の現状は、資料の図に比較できるように作っているが、たくさん選択科目がある中、ほぼ学年の中だけで選択する状態、すなわち単位制の特色があまり生かされていない、学年制の高等学校と大きく変わらない教育課程である。そこで次の入学生の教育課程を改善し、多くの選択科目を異年次共修とし、すなわち2年生、3年生、いずれのタイミングでも受講できる状態、言い換えれば2年生と3年生が共に受講している状態、さらに雑に言うと、大学の講義のようなイメージを持っていただければ良いと思う。そういった状態になるよう、変更することを考えている。このような異年次が混合共修する科目を拡充するねらいは2点であり、1点目は、北陽高等学校が設定する理想の学習者像に、「探究する人：自己の学びを自ら構築する」を掲げている。そこからすると自分自身の好奇心や進路選択に応じて自分がどのタイミングで、何を学ぶべきなのかを学習者である生徒自身が選択・決定する裁量を拡充していきたい、自分の学びのデザインを自己判断・自己決定する力を身に付けさせるような教育課程でありたいというのが1点目のねらいである。2点目は、こちらがどちらかということ大きいのだが、同じく北陽高等学校が設定する理想とする学習者像に、「心を開く人：多様な視点を求め、尊重する」、要は色々なタイプの人と協力的に学んでいこうということを掲げている。均一集団である同じ学年の生徒だけで学ぶよりも、異年次で学び合う、異質な集団で学びあう場面を増やすことにより、多様な他者と協働することができる、そういった力が身に付けさせることができる、そういったことをねらって教育課程を変えていこうというのが大きな2点となる。

その他の改善点として、北陽高等学校は市の教育方針に沿って、国際的な視野を持った人材の社会提供というものをスクール・ミッションにしているが、そのスクール・ミッションをダイレクトに育成するための科目である異文化理解や、国際問題などこういった授業を新たに設定し、いわゆるマルチカルチャリズムやグローバルイシューについて学ぶような授業も加えていきたいと考えている。今後やらなければならないと思っていることが2つあり、1つは今私が話しているような教育課程の考え方を広く市内中学校及び釧路管内の多くの中学校に対して説明していきたいと考えていて足を運びたいと思っている。もう1つは今話し

ているのはあくまでカリキュラムの整備という意味でハード面の整備である。実際一番大事なものは中身のソフト面で、より良い授業がこの中でなされているかどうか、そういう意味ではまだ授業改善が進んでいないところがあり、今後はハード面の整備と併せて先生方1人1人の授業をより良い授業に改善していく校内の研修などが重要になってくると思っているので、そのあたりも今後着手していきたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(大山委員)

全道的に単位制の高等学校で、異学年で同じ授業を受けている高等学校はあるのか。

(鈴木北陽高等学校長)

基本的に道教委の指導として、必ず単位制の学校については異年次で学べるものを設定しなさいと言っているが、大体の学校が少しだけ作っているのが現状であり、ここまで幅広になると調べた中では1校2校かと思う。

(大山委員)

高等学校レベルで異学年と学べるというのは、とても大事なことであると思う。ぜひその授業を進めてほしいと思う。

(岡部教育長)

江南高等学校も単位制かと思うが、同校の現状は把握しているか。

(鈴木北陽高等学校長)

ここまで幅広ではなく、2から4単位分くらいのイメージがある。

(岡部教育長)

ぜひこれを国際理解教育の推進として人材育成につなげていくような流れをつくり、目標の特色化としていただきたい。

(山口委員)

異学年であっても対教師との授業では意味がないので、やはり生徒同士がお互い関わり合いながら学び合うということが重要であり非常に可能性が広がるのではないかと思う。これをきっかけに北陽高等学校の授業改善が、先生方の理解も含めて進むことを期待している。

(鈴木北陽高等学校長)

おっしゃる通りで、上級生下級生が教え合うこと、一緒にディスカッションする共同的な学びが前提である。今、一部の科目では行っているが、その科目の中では上級生下級生がうまく絡み合っているという報告も聞いているので、そういった動きを拡大していければ面白いのではないかと感じている。